科学用語から学ぶ日本語

ニュートリノ

ニュートリノは、とても小さい粒子です。物質をつくる基本的な粒子の一つで、電気をもっていません。重さもほとんどありません。ニュートリノは、太陽の中で光や熱がつくられるときにたくさん生まれます。また、原子力発電所や、宇宙から来る光線がぶつかるときにも生まれます。この粒子は、ほかの物質とほとんど反応しません。そのため、私たちの体や地球を、毎秒何兆個も通りぬけています。でも、私たちは何も感じません。日本の岐阜県には、ニュートリノを調べるカミオカンデとスーパーカミオカンデという大きな装置があります。小柴昌俊博士と梶田隆章博士は、これらの装置を使った研究でノーベル賞をもらいました。ニュートリノを調べると、星が爆発する様子や、宇宙ができたころの様子を知ることができます。ニュートリノは光と違って、物質にじゃまされにくいので、遠くの星の情報を地球まで運んでくれるのです。